

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400147		
法人名	株式会社 陽光		
事業所名	認知症対応型グループホーム 陽だまりの家 1F		
所在地	苫前郡羽幌町栄町94番地8		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400147-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成30年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとって「ここに来てよかった」と思えるように、一人一人の思いに寄り添った介護を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道立羽幌病院や役場、小学校が近くにある閑静な住宅街に平成29年3月に開設された木造2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。開設が間もないこともあり、外部から専門家を招聘して薬の効能についての研修会を実施したり、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、スピーチロックや摂食嚥下障害、熱中症対策等の法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。地元高校生の見学実習の受け入れや施設行事の際には、和太鼓演奏の慰問や紙芝居、本の読み聞かせ等の地域のボランティアの協力を得て楽しみごとへの支援や地元の人々との交流に取り組んでいる。また、羽幌神社祭でのお神輿見物や公園散策など普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「たのしく」「やさしく」の理念を共有し職員会議や日常業務を通してその実践に繋がっている。ホール内に掲示しており、職員が理解して実践するように努力している職員もいるが、わかっていない職員もいる	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作りあげ、内部研修会や日常業務、職員会議等を通じて職員間で話し合う機会を設け、その理念を共有して実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等の行事の見学や散歩をしたり、地域ボランティアの皆さんとの交流、グループホームへの理解を深めるための高校生への施設見学会を実施地域との交流を進めている。	地元高校生の見学実習の受け入れや施設行事の際には、和太鼓演奏の慰問や紙芝居、本の読み聞かせ等の地域のボランティアの協力を得て楽しみごとへの支援や地元の人々との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開園から1年に満たない施設であり、事業者所自体としての日常的な交流の実績は多くなく、今後地域貢献としてのどのようなことが可能か検討課題と考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は5回の会議を開催。医療機関、包括支援センター、消防署、家族会代表で構成し、職員の介護活動状況などについて意見交換しております。また、講習会などの情報も教えていただき対応の仕方を学びサービスに生かしています。	運営推進会議を年6回を目安に開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設利用においての入居状況に関する事項や入居待機の課題などに対する情報を共有するためにそれぞれの町村の地域包括支援センター、介護保険担当係などと意見交換などを通しての連携を図っている。	町担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導・助言を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要とする入居者様はいません。必要な場合は会議を設けて協議していく。「ダメだよ」等の否定的な言葉や、「ここにいてね」等の言葉がけの拘束は使用しないよう心掛けています。もしも使わなければならない状況になった場合には理由を伝え納得してもらってから行動するようにしている	身体拘束廃止、高齢者虐待防止等の内部研修会開催で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、不適切なケアに繋がらないよう日常業務を通じて職員間で共有できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修はしているが行動に移していないので虐待でないとは言えない。言葉でも虐待になると思う。言葉がけがきつく話す職員もあり、防止や注意をしていく必要がある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「陽だまりの家」入居者においては後見人、身元引受人は家族、身内が対応していることから後継制度を活用しなければならない状況にはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において入居者本人の家族に対して施設の運営方針、施設の内容、支援介助について説明。重要事項説明に記載されている事項については1条ごとに説明を行い、家族の疑問質問に答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「陽だまりの家」では入居者の家族会が組織され、家族会に代表を置き運営委員会への参加を得て運営の在り方などへの意見をいただいております。また、家族の面会時に意見交換も行っています。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置してその機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、家族会があり、意見交換できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者皆さんに対する対応、施設運営の改善などについては毎月一回必ず会議を開催し、課題などを共有し意見交換などを行っている。施設運営、入居者の日常支援などにプラスとなることへの改善策に対しての意見反映はオープンな対応を行っている	毎月の会議や日常業務を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員体制は、常勤、パート職員でシフトを組みながら行っている。リーダーを中心に個々の職員の状況も把握しながら勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護未経験の方が一緒に働いているが介護するに当たり外部研修等で研修する機会があると思う。（入居者様を普通の人だと思っている人がいるため）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	開園1年に満たないため、現在取り組みに至っていないが、薬局とは情報を交換して勉強会等を開いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの入居申請の前に施設訪問等があり、実際に支援介助や居室の施設内の見学に対応。その機会に施設の運営などについて意見交換などを行い、理解を深めていただいている。入居前に本人家族と面談し、状況や要望など意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談で家族の意向を確認しています。 毎月の生活記録を送付しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時ではないが、本人が苦痛やストレスなく過ごせるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中でお手伝いを促している。現在では自発的にお手伝いをしてくれる方もいる。入居者が施設の環境に縛られず自由に過ごせるよう関わっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活については「陽だまり通信」で状況を伝えるとともに、本人の意向や通院や入院などが生じた場合などには家族との連絡や連携を図り支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人等が面会時にはゆっくりと過ごせるように配慮しています。	友人・知人の来訪や地域の行事参加、外出行事やボランティアの協力等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題作り、入居者間の関係を職員が把握し、良好な関係が保てるよう支援に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ取り組みを必要とする事例がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とたくさん話をするように心かけている。会話の中でどう思っているのかを探り対応していくようにしている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を日常の会話や家族からの情報をもとに把握し、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を沢山し情報収集している。施設として可能なことかあれば尊重できるよう対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることできないことを判断し、できることは自分で行って頂く。一度判断したら終わりではなく何度か再評価し見直し、入居者間に合うものを提供していく		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子を記録し家族様に送っている。統一した介護を提供するため職員間の情報共有をし経過を追っている。	本人・家族の意見や要望、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、やり取りの細目に残す。特変時やこうした方が良いと感じる際にはノートに記載し意見を伺う。全員がが関わり方を統一していく必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	研修や情報収集、講習等で同業者との意見交換で実践できることは試している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売や食材の購入、入居者の日用品等、入居者と一緒に行くことで地域の人々との関わりや施設を知っていただく機会となっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の医療支援は加藤病院が協力医療機関として、また、道立羽幌病院が医療の支援機関でもあり、それぞれの機関が月1回往診や訪問診療を実施している。体調変化による随時の診療など、入居者の健康管理に適切な支援を受けている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や協力医療機関との連携、通院への支援や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況や変化があった時には看護師に伝え処置や経過観察の指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族から情報を得ています。退院時には病院からサマリーをもらい適切な介護や関わりができるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	当該施設では介護度の低い入居者が中心であり、現在のところ重度化への対応、また、終末期についての対応も視野にない。今後、入居者の重度化が発生する場合には、家族、医療機関と連携し、どのような介護支援が望ましいか検討が必要かと考えている。	重度化した場合や終末期のあり方について、現段階では対象者はいないが早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、指針を職員間で共有すべく研修会を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方が書いてあるマニュアルを電話の近くに置きいつでも見れるようになっている。消防と連携もとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害への備えとして、施設内の設備の把握や使用方法などについて消防署の協力を得て、職員の防災意識の向上のため研修を行っている。今後は避難訓練や避難時の対応などが課題となっているので検討に努めたい。	災害時の避難対策や急変時への対応方法について研修を開催して、職員間で共有できるように努めている。また、地域の人々の協力を得て昼夜を想定した避難訓練や避難時の対応等についても検討している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人部屋で入浴はゆったりと出来るように配慮している。プライベートも確保できるように心懸けている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、不適切な言葉かけや身体拘束廃止等の内部研修会開催で対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいか入居者様の思いを探るようなコミュニケーションを図っている。可能な限り否定せず尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の業務を優先している職員もいる。入居者様が手伝いに来ても「いいよ」といい断って入居者様の気持ちに寄り添っていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て整髪をしたり衣類を選んだりとその人の気分や希望を尊重しているが、支援が必要な方は職員が選んでしまっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量や提供し仕方、器等も入居者の希望や会話の中から意向を探り対応していくように心がけている。嫌いなものがある入居者様には別メニューを提供したり主食をおにぎりに変更したり対応しています。	一人ひとりの力を活かしながら食事の準備や盛り付け、食器拭き等を職員と一緒にやっている。また、水分・食事の摂取量を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合う食事量を提供している。水分量を確保できないこともあり提供の仕方を工夫する必要がある。いろいろ試している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアをしている人もしっかり磨けているか確認し仕上げるには入居者のプライドもあり難しいが可能な限り行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員がトイレで排泄をしている。失敗することでプライドが高い人は傷つきやすいこともあり更衣時にも配慮していく必要がある	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排便には繋がらず、下剤を使用しているが自然な排便に繋がるよう牛乳を提供したり寒天を提供している全職員の協力は難しい		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴をしています。入浴を辞退する人は次の日に声をかけて入りたいときに入れるように対応している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回の目安で柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の方もいますが無理に声をかけず、温かい飲み物を提供したり空腹時何かを提供し落ち着いて眠れるように対応しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は1階2階にわけ用意しておりいつでも見れる環境になっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、食事の盛り付け等お手伝いしてくださっている。初めは声をかけてお願いしていたが、現在では自らお手伝いしてくださっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日には散歩に出かけています。買い物にも職員と一緒に出掛けている。受診時には徒歩で行くこともある	散歩や買い物、徒歩での通院など戸外に出かけられるように支援している。また、羽幌神社祭でのお神輿見物や公園散策など普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売が来る際には自分の欲しい物を自分で購入し支払いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は自由に使用できるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾を毎月変更しています。季節感のある装飾をし刺激となるようにしている。ほか、日中は静かに音楽をかけている	新築での開設で、新しく清潔感が漂っている。共用空間には、季節ごとの飾りつけや行事参加の写真が飾られるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは共同空間であるが、一人一人が過ごせるような雰囲気づくりに努めています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使いやすいように家具や仏壇を居室に配置しております	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂には印をつけて、居室には個人の名前を付ける等の対応をしています。施設内はバリアフリーであり廊下には手摺りが設置されています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400147		
法人名	株式会社 陽光		
事業所名	認知症対応型グループホーム 陽だまりの家 2F		
所在地	苫前郡羽幌町栄町94番地8		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400147-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとって「ここに来てよかった」と思えるように、一人一人の思いに寄り添った介護を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「たのしく」「やさしく」の理念を共有し職員会議や日常業務を通してその実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等の行事の見学や散歩をしたり、地域ボランティアの皆さんとの交流、グループホームへの理解を深めるための高校生への施設見学会を実施地域との交流を進めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開園から1年に満たない施設であり、事業者所自体としての日常的な交流の実績は多くなく、今後地域貢献としてのどのようなことが可能か検討課題と考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は5回の会議を開催。医療機関、包括支援センター、消防署、家族会代表で構成し、職員の介護活動状況などについて意見交換しております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設利用においての入居状況に関する事項や入居待機の課題などに対する情報を共有するためにそれぞれの町村の地域包括支援センター、介護保険担当係などと意見交換などを通しての連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要とする入居者様はいません。必要な場合は会議を設けて協議していく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を徹底するためには、職員一人一人が意識して支援することである。そのためには職員の資質の向上が大切なことから、日頃より内部の会議を通じての連携、研修会に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在「陽だまりの家」入居者においては後見人、身元引受人は家族、身内が対応していることから後継制度を活用しなければならない状況にはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において入居者本人の家族に対して施設の運営方針、施設の内容、支援介助について説明。重要事項説明に記載されている事項については1条ごとに説明を行い、家族の疑問質問に答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「陽だまりの家」では入居者の家族会が組織され、家族会に代表を置き運営委員会への参加を得て運営の在り方などへの意見をいただいております。また、家族の面会時に意見交換も行っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者皆さんに対する対応、施設運営の改善などについては毎月一回必ず会議を開催し、課題などを共有し意見交換などを行っている。施設運営、入居者の日常支援などにプラスとなることへの改善策に対しての意見反映はオープンな対応を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員体制は、常勤、パート職員でシフトを組みながら行っている。リーダーを中心に個々の職員の状況も把握しながら勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	共同生活となる入居者にとっても、また、どのような施設運営にするのか、職員にとっても働きやすい職場環境を生み出すのにためにも大切なことととらえている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	開園1年に満たないため、現在取り組みに至っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの入居申請の前に施設訪問等があり、実際に支援介助や居室の施設内の見学に対応。その機会に施設の運営などについて意見交換などを行い、理解を深めていただいている。入居前に本人家族と面談し、状況や要望など意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時ではないが、本人が苦痛やストレスなく過ごせるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ることを声掛けし協力して頂くよう努めています。集団レク時間に皆で手作業する事によりやってみようと思えるように取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活については「陽だまり通信」で状況を伝えるとともに、本人の意向や通院や入院などが生じた場合などには家族との連絡や連携を図り支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人等が面会時にはゆっくりと過ごせるように配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題作り、入居者間の関係を職員が把握し、良好な関係が保てるよう支援に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ取り組みを必要とする事例がない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が続けられるように日々の会話、行動からそれぞれの思いをくみ取り職員間で共有できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの会話等から知り得たことを今後の生活に生かせるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況に合わせて対応し、職員間で情報の共有により、その人にあった支援を心掛けています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子を記録し家族様に送っている。統一した介護を提供するため職員間の情報共有をし経過を追っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の様子を書き出し、夜勤帯で振り分け個別ケア状況書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	研修や情報収集、講習で同業者との意見交換で実践できることは試している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売や食材の購入、入居者の日用品等、入居者と一緒のいくことで地域の人々との関わりや施設を知っていただく機会となっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の医療支援は加藤病院が協力医療機関として、また、道立羽幌病院が医療の支援機関でもあり、それぞれの機関が月1回往診や訪問診療を実施している。体調変化による随時の診療など、入居者の健康管理に適切な支援を受けている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時や医療的な相談をし入居者様に合ったケアを行えるようにしている。日々申し送りを行い、情報共有を図っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関及び医療支援体制として町内の2つの医療機関の支援体制を受けている。施設運営会議においても両機関からの参加を得て、情報交換を行い入居者の入退院の連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	当該施設では介護度の低い入居者が中心であり、現在のところ重度化への対応、また、終末期についての対応も視野にない。今後、入居者の重度化が発生する場合には、家族、医療機関と連携し、どのような介護支援が望ましいか検討が必要と考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方が書いてあるマニュアルを電話の近くに置きいつでも見れるようになっている。消防と連携もとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害への備えとして、施設内の設備の把握や使用方法などについて消防署の協力を得て、職員の防災意識の向上のため研修を行っている。今後は避難訓練や避難時の対応などが課題となっているので検討に努めたい。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人部屋、入浴も一人ずつでプライバシーを確保。トイレは開閉式のカーテンを使用し危険防止に努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の意思を尊重し確認しながら対応しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の生活の中で一人一人のペースを大切に、1日を過ごせるように支援していきます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選んで頂き、必要に応じて介助。起床離床時には整髪、整容への言葉かけを行うなどの支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の咀嚼、嚥下状態に合わせた食事を提供しております。行事等に合わせて食事を選択して提供できるように努めています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事については栄養バランスを考慮し1日に水分量は1200CCを目安に提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアにより感染者症や誤嚥性肺炎の予防に努めています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄の自立を目指して支援。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、便秘時には看護師と相談し対応しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴をしています。希望や状態に合わせて入浴日を変更するなどの対応。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠、不穏のある方は状態に合わせて対応。離床時間を配慮し休息がはかれるよう努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル等で確認。処方箋に変更があった場合には情報を申し送りし確認していきます		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、現在の状況に合わせてできる範囲での出来ることを行って頂ける様支援していきます。レク活動では入居者様が楽しく参加できるように実施いたします		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場の天気のいい日には屋外散歩を実施。外泊、外出については家族の支援で実施しています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売が来る際には本人に選んで頂き、支払いは施設で行っております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している人もいます。施設の電話は自由に使用できるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の装飾を毎月変更しています。季節感が感じられるように対応しています。入居者様と共同作業を行っています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは共同空間であるが、一人一人が過ごせるような雰囲気づくりに努めています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使いやすいように家具や仏壇を居室に配置しております		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂には印をつけて、居室には個人の名前を付ける等の対応をしています。施設内はバリアフリーであり廊下には手摺りが設置されています。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム陽だまりの家

作成日: 平成 30年 3月 16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	13	入居者様に対しての支援が統一されていなく、しよくいんの周知が必要	その人らしく生活して頂くために、職員が同じ方向性を持ち、統一した支援を行えるようにする	・グループホームの特性を確認 ・入居者様の状況を把握し介護計画書を作成して、情報を共有し支援方法を統一する。	12ヶ月
2	13	実際には起きていないが、不適切な言葉遣いなど気にかかる場面が見られる。 (そこにいなさい、どうして動くの等)	不適切な言葉は使わない	当たり前に使っているが、外部の人から指摘があると直るのかもしれない。 (本人気づくよう研修に取り組む)	12ヶ月
3	13	グループホームはどういうところか理解していない (認知症についても)	理解する必要がある	病気が理解していないから怒るような口調で話したりしているため意識を変えることを指摘する人が必要。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。